

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 家庭科 科目 家庭総合

教科：家庭科 科目：家庭総合

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 A組～E組

教科担当者：

使用教科書：（家庭総合 実教出版）

教科 家庭科 の目標：

【知識及び技能】生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。	・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	・様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第3章 子どもとかわる 【知識及び技能】 ・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴、子どもの食生活・衣生活、遊び、子育てのための国や地域の社会的支援について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 子どもの発達、生活、子育てにかかわる社会的課題について考えを深め、表現する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 子どもをとりまく状況について、意欲を持って考えようとする態度を養う。	・教材（教科書・資料集） ・一人1台端末の活用により、視覚的にも理解できるようにし、必要に応じてプリントも配布する。	【知識・技能】 子どもの心身の発達や子どもの生活、子どもとの接し方、子どもの発達段階において、子どもをとりまく人とのかかわり、地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解できる。 【思考・判断・表現】 子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 子どもをとりまく状況について、現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。	○	○	○	8
	第6章 食生活をつくる 【知識及び技能】 気候風土や宗教による食生活の違いを学ぶ。ライフステージごとの食生活の特徴を学ぶ。自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。食品の調理上の特性を知り、適切な調理を考える。旬の食材を考え、旬の時期がなぜよいか学ぶ。食品衛生について学ぶ。食中毒の予防法や、食品添加物の特徴について正しい知識を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・食品の自給率や食に関する環境問題について考える。環境に配慮した食生活（食品ロス等）について考える。食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。 ・食中毒の予防法や食品の調理性を理解し、自ら考えながら調理実習・実験に取り組む力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点をもって、知識を深めようとする態度を養う。 ・調理を通して、基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。 ・積極的に調理実習・実験に参加し取り組もうとしている。	・教材（教科書・資料集） ・一人1台端末の活用により、視覚的にも理解できるようにし、必要に応じてプリントも配布する。	【知識・技能】 ・各地の気候風土や宗教による食生活の違い、食事の意義や役割、栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術、食中毒の予防法や、食品添加物の知識を身につける。家族の献立を作成することができる。 ・食中毒の予防法や、食品添加物の特徴をとらえることで、安全な食品について理解している。 【思考・判断・表現】 ・栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身につけ、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりに向けての判断ができる。 ・調理実習において、作業の流れを判断しながら取り組むことができる。 食品添加物について理解し、調理実習・実験においては作業の流れを判断しながら取り組むことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点を持って、知識を深めようとしている。調理実習においては、積極的に参加し、取り組もうとしている。 ・調理実習・実験においては積極的に参加し取り組もうとしている。	○	○	○	17
	定期考査			○	○		1
1 学 期	第7章 衣生活をつくる 【知識・技能】 衣服の起源や歴史、風土に適した衣服について学ぶ。衣服が持つ機能や安全性などについて学ぶ。快適な衣服の特徴や機能について考える。洋服と和服の違いを考える。衣服製作実習を通して、基礎的な縫製技術を身につける。 【思考・判断・表現】 暮らしの中での素材衣服の性能と改善について学ぶ。環境に配慮した衣生活について世界の動向を学び、自分たちができることを考え、まとめる力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける姿勢を養う。	・教材（教科書・資料集） ・一人1台端末の活用により、視覚的にも理解できるようにし、必要に応じてプリントも配布する。	【知識・技能】 衣服の素材の種類や特徴、衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識や、縫製技術を身につけることによって、衣服を適切に選択し管理することができる。和服の着装や布地について理解できる。 【思考・判断・表現】 衣服の用途によって、適切な衣服素材を考え、判断することができる。衣服材料・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。現在の衣生活をとりまく状況について、自分の衣生活を振り返りながら、課題を導き出すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 衣生活の文化や、自分の衣生活をとりまく状況について関心をもち、衣生活の改善・向上に積極的に取り組もうとする。衣服実習において、製作活動に意欲的に取り組んでいる。	○	○	○	14
	第8章 住生活をつくる 【知識・技能】 人間と住まい、住まいの文化、健康に配慮した快適な室内環境、安全な住まい、持続可能な住まいについて正しい知識を身につける。 【思考・判断・表現】 住まいの生活空間の機能を理解し、空間の特徴や家族のイメージをすることができるようにする。に取り組む力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 住まいの文化や機能、住空間の計画や住環境について関心をもち、快適な住まいづくり、よりよい住生活の創造にむけて意欲的にとりくもうとする。	・教材（教科書・資料集） ・一人1台端末の活用により、視覚的にも理解できるようにし、必要に応じてプリントも配布する。	【知識・技能】 気候・風土に適した住まい、日本の住まいの歴史、日本の住まい方の特徴、健康的な住まい環境における基本的な知識、安全で快適な住まいや、社会環境・地域環境について理解している。平面図を読み取ることができる。 【思考・判断・表現】 ライフステージと住空間の設計の関係、住宅政策や住環境との関係について考えを深めることができる。安全な住まいづくりや、快適な住環境のための課題を見つけることができ、その課題解決のための方策を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 快適な住まいづくり、よりよい住生活の創造にむけて意欲的に取り組もうとする。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1

3 学 期	<p>第4章 高齢者とかかわる</p> <p>【知識・技能】 高齢化社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活、要介護の高齢者との接し方、高齢者を支えるしくみについて理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 高齢者と家族とのかかわり、経済、社会での活躍などを知り、高齢者における生活の課題について、適切な考えを持ち、判断する力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかかわろうとする態度を養う。</p>	<p>・教材（教科書・資料集）</p> <p>・一人1台端末の活用により、視覚的にも理解できるようにし、必要に応じてプリントも配布する。</p>	<p>【知識・技能】 高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴について理解している。高齢期を支える社会的な制度・しくみについて理解している。高齢者の生活における地域社会の役割、地域福祉の重要性について理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】 高齢社会の課題やその解決にむけて自分の考えをまとめることができる。また、高齢者の自立した生活とは何か自分の考えをまとめることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。</p>	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
							70